

公益財団法人 四万十川財団  
TEL 0880-29-0200  
FAX 0880-29-0201  
Mail office@shimanto.or.jp  
URL http://www.shimanto.or.jp



「よみがえれ! 四万十川のあゆ」と題しての発表。



水生生物調査の様子。

## ■四万十川の鮎を未来へ繋げるために。part II

先月号では天然鮎資源の再生について高橋氏の取りくみを紹介したが、今月号では西土佐小学校4年生の取りくみについて紹介したい。

四万十川の下流域に位置する四万十市西土佐地区。人口約3000人の小さな地区であるが、2013年には暑さ日本一を記録して注目を浴び、昨年4月には四万十市初の道の駅「よって西土佐」が完成するなど賑わいをみせている。鮎やテナガエビが豊富で漁業が盛んに行われており、道の駅内では“鮎市場”という店が自慢の鮎を販売して観光客を楽しませている。また、夏になれば子ども達が川で遊ぶ姿もよく見かけられ、流域の中でも比較的川との関わりが深い地区であると言えるだろう。

我々と西土佐小学校4年生の子ども達が出会ったのは、四万十川の水

質調査がきっかけであった。四万十川条例で川の保全を図るため地域住民と共に水質調査を行うこととなっており、西土佐小学校の子ども達には毎年その調査に協力してもらっている。昨年も例年通り水質調査を実施したのだが、しばらくして、四万十川の鮎が減っている原因について教えて欲しいと学校から連絡があった。担任の先生の話によると、四万十川の鮎が危機的状況にあると知った子ども達はその原因や鮎を増やす対策について調べていて、疑問を持った点について我々に話を聞いてみたいとのことだった。他にも道の駅の駅長や家族への聞き取り、文献の調査なども行ったようである。そして先日、1年間の学びの成果を保護者や地域の方に向けて発表する学習発表会があり、我々も招待を受け、参加させてもらった。

子ども達の発表内容は次項にまとめるが、鮎資源の減少とその対策について自分の言葉や表現に置きかえて発表している様子からは、今回の調べ学習が一方的な学びではなく、子ども達がこの問題を自分自身のこととして捉え、考えてきた学習であったことが感じとれた。将来を担う子ども達の四万十川に対する興味関心が高まり、知見が深まったことは、四万十川を守り続けていく上で非常に重要である。今後も学校と地域が連携したこのような質の高い学習が行われていくよう、我々もサポートを続けていきたい。

